平成２３年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	２３Ｋ１４	氏　名	畝尾　宏明
研究主題 ―副主題―	総合的な学習の時間の充実が学校経営に与える影響 ―　子供　教職員　地域の視点から　―		
所属校	杉並区立杉並第八小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項　目	内　容
Ⅰ　研究の目的	本研究の目的は、総合的な学習の時間が学校経営にどのような好影響を及ぼせるかを明らかにし、各学校における総合的な学習の時間のより一層の充実を図ることにある。 **問題の所在** (1)総合的な学習の時間の特徴と意義 平成１０年に新設された総合的な学習の時間は、各学校が単位となり、各学校が、目標と内容を定め、そこで身に付けさせたい力やそのための学習内容、指導方法、評価計画までも各学校で責任をもって定める点に大きな特徴がある。 平成２０年の学習指導要領改訂においても、総合的な学習の時間創設の趣旨・理念は全く変わらない。「『知識基盤社会』の時代においてますます重要な役割を果たす」（平成２０年１月中教審答申（以下平成 20 年答申））ことが期待されている。 (2)総合的な学習の時間における現状と課題 しかし、総合的な学習の時間の充実はいっこうに進んでいない。学習指導要領改訂の基になった中教審答申（平成 20 年答申）でも苦言が呈されている。これを実証するデータとして、ベネッセ第５回学習基本調査「小学校中学校における学習指導の実態と教員の意識」をあげる。調査によると、総合的な学習の時間の指導に困難さを感じているにもかかわらず、力を入れて研究している教員は大変に少ないということが明らかになっている。 (3)研究主題設定の理由 ではなぜ、「総合的な学習の時間の一層の充実」（平成 15 年答申）が求められてから久しいにもかかわらず、その充実が一向に図られないのだろうか。前述した総合的な学習の時間の特徴とも合わせて考えると、総合的な学習の時間を学校経営の視点で捉える必要性がある。このことから、本研究主題を設定した。
Ⅱ　研究の方法	ＡＢＣＤ４つのステージに分けて研究を進めた。Ａステージでは、基礎研究。Ｂステージでは、学校経営と総合的な学習の時間の関係を学校経営計画の収集分析およびインタビュー調査によって明らかにした。ＣステージではＡＢの成果を下に仮説を生成し、仮説に基づいた検証単元やワークショップなどの具体的な手立てを考案した。Ｄステージでは、考案された検証単元やワークショップを実践し、その効果を検証した。
Ⅲ　研究の結果	**１　学校経営計画の分析に見る学校経営と総合的な学習の時間の関係** 学校経営計画の分析は２つの視点により行った。一つは学校経営計画がどんな項目によって書かれているかを探る構成要素の視点による分析１である。もう一つは総合的な学習の時間にかかわる記述がどの程度明記されているかの視点による分析２である。この２つの分析から学校経営と総合的な学習の時間の関係性を見出すこととした。 分析１により本研究では学校経営を考える視点として、「子供」「教職員」「地域」という３つの視点をもつことにした。なぜなら、この３つの視点で学校経営方針を論じている学校が数多く見受けられたからである。また総合的な学習の時間が、学校や地域の特色に応じて教育活動を展開するという特徴から考えてみても、適当であると判断したためである。 次に総合的な学習の時間に関する記述がどこにどの程度明記されているかを見る分析２である。分析２で注目すべきは、総合的な学習の時間に対する期待として学力向上をあげる学校が多いことである。一方、地域連携や学校の特色として総合的な学習の時間を考えている学校があまり多くないことが分かる。このことから、学校経営者である学校長が地域連携や学校の特色づくりとして総合的な学習の時間に期待していないか、もしくは地域連携や学校の特色となる総合的な学習の時間が展開されていないのではないかと考えることができる。 さらに特筆すべきは教師像や授業力の項目において総合的な学習に関する記述がまったくなかった点である。このことから、総合的な学習の時間は教師の授業力向上やめざす教師像の育成という側面において学校経営上期待されていないのではないかと考

	えられる。 **２　インタビュー調査から見る総合的な学習の時間の充実と学校経営** 調査目的は総合的な学習の時間の充実が学校経営、特に「子供」「教職員」「地域」にいかに有機的に働いているかを明らかにすることである。 （１）目指す子供像と総合的な学習の時間の関係 分析結果　総合的な学習の時間のねらいである４つの資質能力及び態度の向上はもとより、各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連付けるという点ではかなりの成果が得られた。さらに、子供が学習に対して主体的・意欲的になるという成果が確認された。 （２）教職員の育成と総合的な学習の時間の関係 分析結果　学校経営案の分析に相反して、教員の力量を高めるという成果が色濃く出た。具体的には、カリキュラムデザイン力や児童の学習状況に応じた適切な指導、他教科領域での学習内容の関連性を理解できることや外部折衝力という成果も認められた。このほかにも、授業づくりへの意欲といった情緒的な意欲面の育成にも大きな成果が見られた。 （３）地域連携と総合的な学習の時間の関係 分析結果　学校と地域との協働が総合的な学習の時間の充実によってはかられるということが明らかになった。学校経営計画にあまり触れられていないのは、地域を巻き込んでの総合的な学習の時間が展開されていないからではないかと考える。この他の主な成果としては、地域からの期待や要望が学校運営の大きな力となっている点が挙げられる。また、新たな連携が広がる可能性も出てくる。さらに、行政や公共施設との協力、連携という視点も生まれやすくなるという成果も見られた。 **３　仮説の設定** これまでの研究により、総合的な学習の時間の充実が学校経営に与える影響は１３点で整理されることがわかってきた。これを本研究の仮説とする。
Ⅳ　考察	先に挙げた、仮説から、３つの検証の視点を設定し具体的な手立てを立てて考察を行った。考察にあたり、検証単元「再発見！自分たちの高円寺阿波踊り」（５年生総合的な学習　伝統文化　２５時間扱い）を開発し実践した。 **１　OECDのキーコンピテンシーが身に付く** 具体的な手立て：評価規準作成の工夫とその活用 OECDのキーコンピテンシーと符合している育てたい資質能力及び態度（解説編第4章第1節）を活用し、評価規準の設定を行った。この評価規準をもとに指導と評価を一体化させていくことで、確かな学力の育成につなげることができた。派遣研修成果報告会の授業研究においても参加者より評価基準作成の工夫について肯定的な意見を得られた。 **２　教員のカリキュラムデザイン力の育成** 具体的な手立て：ワークショップの考案と実践 単元づくりをメインとしたワークショップを考案し、検証単元のカリキュラムを校内研修で作成した。また、都内小学校４校において同ワークショップを行い、その効果をアンケートで測定した。結果、学習内容・学習段階・探究的な学習過程すべてにおいて、肯定的な回答が９割を超え、一定の成果を得ることができた。 **３　地域の願いを受け期待にこたえる学校づくり** 具体的な手立て：地域の課題を取り上げた学習活動の工夫 ＮＰＯ法人高円寺阿波踊り振興協会に協力を依頼し、地域の伝統行事である高円寺阿波踊りの課題を学習の中心に据えた。単元終了後のインタビューでは「学校との距離が縮まり、感謝している」「このように、学校の枠を出て社会で社会性を学ぶ学習を展開してほしい」といった肯定的な声がたくさん聞かれ、本校の学校経営理念にも近付けることができた。このことから、この手立てが効果的であったと考察できる。